

## レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第29回幹事会議事次第

- 1 日 時：令和6年10月18日（金）12時30分～13時15分
- 2 場 所：秋葉原コンベンションホール 5階 5A会議室
- 3 出席者：寶（会長）、甘利（副会長）、遠藤（副会長）、岡島  
オブザーバー：林（東京海上日動）  
陪席者：松室（防災科学技術研究所）、松本（〃）、小松原（セコム）、  
大貫（筑波大学）、増田（〃）、栗原（〃）、酒井（〃）、根本（〃）

（敬称略）

### 4 議事

#### I. レジリエンス研究教育推進コンソーシアムに係る事案

- (1) 総会・運営委員会・幹事会の体制変更について……………資料1
- (2) 巨大災害研究会との合同シンポジウム〔2月28日開催〕について……………資料2
- (3) 第2回キャリアマッチングデー〔次年度開催〕について……………資料3
- (4) コンソーシアムWebサイトの改修について
- (5) その他

#### II. 筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラムに係る事案

- (1) 協働大学院教員候補者の推薦について……………資料4
- (2) 令和6年度実施入試（8月期）の結果について
- (3) その他

#### （配付資料）

- 資料1 レジリエンス研究教育推進コンソーシアム総会・運営委員会／幹事会委員名簿…p.3  
資料2 2024年度巨大災害研究会・R2EC合同シンポジウム企画（案）……………p.5  
資料3 第2回キャリアマッチングデー事前アンケート（案）……………p.6  
資料4 協働大学院教員候補者の推薦について（依頼）（案）……………p.7



## レジリエンス研究教育推進コンソーシアム幹事会委員名簿

氏名	機関名	所属・職名	選出区分
◎ 寶 馨	国立研究開発法人 防災科学技術研究所	理事長	第10条第4項(1)
甘利 康文	セコム株式会社	IS研究所 リスクマネジメントグループ グループリーダー	第10条第4項(2)
遠藤 靖典	国立大学法人筑波大学	システム情報系 教授 システム情報工学研究群長	第10条第4項(2)
岡島 敬一	国立大学法人筑波大学	システム情報系 教授 システム情報工学研究群リスク・レジリエンス工学学位プログラムリーダー	第10条第4項(4)

◎は議長を示す

## オブザーバー名簿

氏名	機関名	所属・職名	選出区分
林 春男	東京海上日動火災保険株式会社	dx推進部 アドバイザー	オブザーバー

## 陪席者名簿

氏名	機関名	所属・職名	選出区分
小松原 康弘	セコム株式会社	研究企画推進部 主務	陪席者
松室 寛治	国立研究開発法人 防災科学技術研究所	企画部 部長	陪席者
松本 拓巳	国立研究開発法人 防災科学技術研究所	企画部 次長	陪席者
倉谷 定秋	国立研究開発法人 防災科学技術研究所	企画部研究推進課 課長	陪席者
田代 麻弥	国立研究開発法人 防災科学技術研究所	企画部研究推進課 係長	陪席者
大貫 康司	国立大学法人筑波大学	システム情報エリア支援室 室長	陪席者
増田 正裕	国立大学法人筑波大学	システム情報エリア支援室 主幹	陪席者
栗原 宏太	国立大学法人筑波大学	システム情報エリア支援室 大学院教務 係長	陪席者
酒井 美和	国立大学法人筑波大学	システム情報エリア支援室 大学院教務 係員	陪席者
根本 美南	国立大学法人筑波大学	システム情報エリア支援室 エデュケー ション・アドミニストレーター (UEA)	陪席者

(参考)

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム規約

第10条第4項 幹事会は、次の委員で構成する。

- (1) 会長
- (2) 副会長 2名
- (3) 正会員の中から互選により選出する委員 若干名
- (4) リスク・レジリエンス工学学位プログラムリーダー
- (5) その他、会長が指名する者 若干名

## レジリエンス研究教育推進コンソーシアム総会・運営委員会委員名簿

氏名	機関名	所属・職名	選出区分
甘利 康文	セコム株式会社	IS研究所 リスクマネジメントグループ グループリーダー	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
柳生 智彦	日本電気株式会社	セキュアシステムプラットフォーム研究所 主任研究員	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
狩矢 淳雅	東急プロパティマネジメント株式 会社	BC推進センター センター長	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
秋山 一也	NTT宇宙環境エネルギー研究所	企画部 部長	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
長瀬 貫隆	一般財団法人DRIジャパン	理事長	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
星川 英	一般財団法人電力中央研究所	企画グループ 研究管理担当スタッフ 上席	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
安部 原也	一般財団法人日本自動車研究所	自動走行研究部 主任研究員	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
福島 幸子	国立研究開発法人海上・港湾・航 空技術研究所 電子航法研究所	特別研究主幹	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
玄地 裕	国立研究開発法人 産業技術総合研究所	エネルギー・環境領域 領域長補佐 兼務 エネルギー・環境領域連携推進室 室長	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
◎ 寶 馨	国立研究開発法人 防災科学技術研究所	理事長	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
山際 謙太	独立行政法人労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所	機械システム安全研究グループ 部長代理	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
Wei-Sen Li	National Science and Technology Center for Disaster Reduction	Secretary General	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
遠藤 靖典	国立大学法人筑波大学	システム情報系 教授 システム情報工学研究群長	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
岡島 敬一	国立大学法人筑波大学	システム情報系 教授 システム情報工学研究群リスク・レジリエンス工学学位 プログラムリーダー	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)

◎は議長を示す

(参考)

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム規約

第8条第4項 総会は、次の委員で構成する。

- (1) 正会員の代表者
- (2) その他、会長が指名する者

第9条第4項 運営委員会は、次の委員で構成する。

- (1) 正会員の代表者
- (2) その他、会長が指名する者

2024 年度巨大災害研究会・R2EC 合同シンポジウム企画案  
「スマートシティと防災」

- 日時：2025 年 2 月 28 日（金）14:00-16:30
- 場所：関西大学梅田キャンパス KANDAI Me RISE ホール <https://kandai-merise.jp/access/>
- 形式：原則対面（簡易オンライン配信あり）
- 趣旨：

近年、AI や IoT（モノのインターネット）などのデジタル技術革新により、都市の防災能力は飛躍的に向上する可能性を秘めています。スマートシティとは、通信インフラ、エネルギー管理、交通網などを高度に連携させ、市民生活の利便性と安全性を最大限に引き出す都市構造を指します。スマートシティは、地方都市の存続や日常生活の高度化などに主軸が置かれ、必ずしも防災・減災を中心には考えられていません。特に自然災害の多発する日本においては、スマートシティに日常の高度化と防災・減災力向上の両立が求められ、テクノロジーを活用した防災・減災がますます重要視されています。

本シンポジウムでは、「スマートシティと防災」をテーマに、福島での東日本大震災後の復興、令和 6 年能登半島地震後の対応状況にも触れながら、最新の技術と地域社会の連携による防災とスマートシティの関わり方を議論します。さらに、都市の形成を担う市民一人ひとりの防災意識の向上を含む持続可能な防災体制のあり方にも焦点を当て、地域社会全体で災害に強いレジリエントな都市を目指すための具体的な姿を探求します。

- プログラム（案）

14:00 開会挨拶・趣旨説明（5分）

- ◆ 第 1 部：基調講演

14:05 基調講演①（20分） 関谷 直也 教授  
（東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター／  
福島国際研究教育機構（F-REI））

14:25 基調講演②（30分） 鈴木 健嗣 教授  
（筑波大学システム情報系長、つくば市 顧問（スマートシ  
ティ／スーパーシティ・アーキテクト））

14:55 話題提供（20分） 児島 誠 氏（富山市 防災危機管理課 主幹）

15:15 休憩（15分）

- ◆ 第 2 部：パネルディスカッション

15:30 パネルディスカッション「スマートシティと防災」（55分）

- ・第 1 部登壇者 3 名
- ・パネルコメンテーター 2 名（R2EC/巨大災害研究会から 1 名ずつ）

**R2EC：防災科研の研究者**

巨大災害研究会：木村 玲欧 教授（兵庫県立大）、または井ノ口 宗成 准教授（富山大）、  
または新建新聞社 中澤 幸介 氏

- ・コーディネーター 1 名：遠藤 靖典 教授（筑波大学システム情報工学研究群長）

16:25 まとめ・閉会挨拶（5分）

## 筑波大学×レジリエンス研究教育推進コンソーシアム キャリアマッチングデー

### 第2回開催に向けた事前アンケート(案)

レジリエンス研究教育推進コンソーシアムでは、令和6年度より、筑波大学の優秀な学生に対してコンソーシアム参画機関への就職支援を目的としたイベント「キャリアマッチングデー」を開催しております。

次年度に第2回を開催するにあたり、実施時期・実施内容について各機関のご希望を伺いたく、下記のアンケートにご回答を賜りますよう、お願い申し上げます。ご回答内容を企画の参考とさせていただきます。

※第1回(令和6年7月8日開催)の様子はこちら <https://r2ec.jp/news/2830/>

機関名：( )

1. 実施時期はいつ頃をご希望されますか。(複数回答可)

- 4～5月(春学期前半)
- 6～7月(春学期後半)
- 10～12月(秋学期後半)
- 1～2月(秋学期後半)
- その他：( )

2. マッチングを希望する学生の課程について教えてください(複数回答可)

- 博士前期課程(修士課程)の学生
- 博士後期課程(博士課程)の学生
- 学類(学部)の学生

3. マッチングを希望する学生の具体的な研究分野や人物像等があれば自由にご記入ください。(任意)

4. 上記以外に、本イベント開催に関してご意見・ご要望がございましたら自由にご記入ください。(任意)

ご協力誠にありがとうございました。

本アンケートは、令和6年11月 日( )までに、レジリエンス研究教育推進コンソーシアム事務局  
([r2ec-sec@risk.tsukuba.ac.jp](mailto:r2ec-sec@risk.tsukuba.ac.jp))宛ご提出ください。

令和6年10月 日

一般財団法人 電力中央研究所  
理事長 平 岩 芳 朗 殿

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム  
会 長 寶 馨

筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラム  
プログラムリーダー 岡 島 敬 一

協働大学院教員候補者の推薦について（依頼）（案）

令和2年4月1日開設の協働大学院方式による「リスク・レジリエンス工学学位プログラム」は、現実社会の問題を見据えて社会に貢献する研究者・高度専門職業人を養成するため、レジリエンス研究教育推進コンソーシアムとの協働で高度専門型の教育研究プログラムを形成し推進しております。

この学位プログラムでは、4つの研究領域（リスク・レジリエンス基盤、都市防災・社会レジリエンス、環境・エネルギーシステム、情報システム・セキュリティ）の教育研究指導体制を強化・充実させ、実施基盤の構築を進める必要があります。現在までに本学位プログラム専任教員に加え協働大学院教員による教育研究体制を構築して参りました。

この度、本学位プログラムでは、環境・エネルギーシステム領域の体制強化を目的として、貴所のエネルギーマネジメント分野を専門とする優秀な研究者に協働大学院教員として参画していただきたいと考え、下記のとおり協働大学院教員候補者の推薦をお願いする次第です。よろしくお取り計らい願います。

記

対 象 分 野 : エネルギーマネジメント分野  
職 名 ・ 人 数 : 教授（協働大学院）または准教授（協働大学院）・1名

以 上